

## アイヌ語学習のいま

愛努語學習的現在

The Current State of Ainu Language Learning



北原次郎太  
財団法人アイヌ民族博物館 学芸員  
郭祐慈 翻譯  
圖片提供 北原次郎太

「今もアイヌ語を話せる人は何人くらいいるか」。これは博物館に寄せられる質問の中でも、特に多いものだ。私はこれに答えようとして、そして考え込んでしまう。どう答えるのが正確かわからないからだ。「少なくとも私が知る限り、日常会話をアイヌ語だけで行っている人はいない」。ひとまずこう答えるのだが、そのときに「数年後も同じとは限らない」という考えがよぎってしまう。今日にも、私の知らないところで新しい話者が生まれているかもしれないのだ。

アイヌ語は系統のはっきりしない言語だといわれるが、同じく系統の不明なニヴフ語や日本語と、非常に長いあいだ隣り合ってきたことは確かなようだ。アイヌ語が日常語として使用されていたことが確実といえるのは日本史でいう明治以前、つまり日本政府による日本語使用の強制が始まる以前のことである。明治(1867~1911)になると、日本語による姓名の使用や、

「現今大概有多少人說愛努語？」在博物館所收到的問題中，這樣的問題特別多。我要回答時總陷入沈思。如何回答才正確呢？「起碼限於我所知，日常生活並沒有僅以愛努語進行會話的人」。姑且如此回答，那時卻也認為「數年後難保也是相同的情況」。即使現今，也可能在我不知道的地方，已經有新的話者出現。

愛努語可說是系統並不清楚的語言，似可確定的是，他與同樣系統不明的尼夫赫(Nivkhs)語和日本語間，有非常長期間相鄰的情況。在明治以前的日本史，也就是日本政府開始強制使用日本語以前，愛努語確實可說是做為日常語使用。至明治(1867~1911)時期，使用日語姓名，兒童接受日語義務教育，相對地，愛努

児童に対する日本語での教育が義務付けられるようになり、アイヌ語の社会的な地位は相対的に低くなっていった。また、日本人による差別は、アイヌ語を積極的に捨てようとする傾向を生んだ。実際に、アイヌ民族の生活の中でアイヌ語の使用状況がどのように推移したかを確実に知ることのできる資料はないのだが、中川裕氏（千葉大学教授）は1900年ころに一つの節目があるのではないかと推論している。現在、私達がアイヌ語を学習するときに使っている教材は、1900年～1910年前後に生まれた方々が語り残したものが多い。家庭環境にもよるが、とくに高齢者と接する機会が多かった方は、かなり流暢にアイヌ語を操ることができた。1916年に樺太（サハリン）西海岸に生まれた私の祖母はアイヌ語と日本語両方の名前を持ち、ある程度の会話が出来たようだ。しかし、私の母(1946年生)の記憶では、祖母が家庭でアイヌ語を使うことは一切無かったという。母は、小学校に通うまで自分がアイヌであることはおろか、アイヌという言葉さえ知らなかった。ただ、ときおり大人どうしの会話では、なにか聞いたことのない言葉を使ってるのを耳にした。不思議がって「何をいっているの?」と聞くと、きまって「英語だ。お前は覚えなくていい」と言われたらしい。これは母の世代にほぼ共通した経験である。

こうして、アイヌ語の母語話者が新しく育つことは難しくなったが、幼少期に身につけたアイヌ語を記録しようという意思を持った人は各地におり、あるい

語的社會地位逐漸變低。另一方面，愛努人由於受到日本人的歧視，卻有了積極捨棄愛努語的傾向。實際上，在愛努民族生活中，愛努語使用狀況究竟如何推移並無確知的資料。中川裕（千葉大學教授）推論在1900年左右為一個分水嶺。現在，我們學習愛努語時所使用的教材，多為1900~1910年前後出生的人們所遺留的話。他們除了家庭環境之外，特別是有機會接觸高齡者的人，尚能操相當流利的愛努語。我祖母於1916年出生在庫頁島西海岸，擁有愛努語和日本語的名字，似乎還能進行某種程度的會話。但是，在我母親（1946年生）的記憶裡，祖母在家中全然未使用愛努語。聽說我母親上小學之前，連「愛努」這詞也不知道，更不用說自己是愛努。大人會話時，偶爾聽到沒聽過的詞語，而覺得很奇怪，於是問「你們說什麼話？」；答案一定是「是英語啦！你不要知道」。這種經驗我們母親輩幾乎都有過的。

因此，要重新孕育愛努語的母語說者，變得困難。但各地都有人，想要記錄自己年少時期所習的愛努語，

は自分の生い立ちをアイヌ語で書き残し、あるいは自分の記憶している物語、祈り詞などを書き残す、語り残すという努力が行われた。また、上の世代から積極的にアイヌ語を学び、音声記録を採る努力も各地で行われてきた。

1980年代から、アイヌ語を含むアイヌ文化の復興運動が盛んになった。差別が無くなった訳ではないが、先住民復権の国際的な動きにも触発されて活動が活発になり、アイヌ語はそのシンボルのひとつとなった。1970年代に沙流郡平取町二風谷の萱野茂が私的なアイヌ語教室をはじめ、やがて北海道各地にアイヌ語教室が開設されるようになった。アイヌ語には共通語に当たるものが無く、正書法も定められていない。このことが学習を難しくしているが、1994年には、各アイヌ語教室の代表と言語学者が協議して、教科書『アコロイタクAKOR ITAK』を作成した。ここで検討されたローマ字とカタカナの表記法、両者の併用というスタイルは、現在でも比較的広く採用されている。1996年には、3つの辞書が刊行され、その後もいくつかの教科書が作られている。アイヌ語の授業を開講する大学もいくつかある。学生の多くは日本人だが、アイヌの子弟も年に数名は受講している。

1997年にアイヌ文化法が制定されたことも大きな出来事だった。この法律には、いわゆる先住権がまったく盛り込まれないなど、アイヌ民族が本来求めていた法律とは大きく異なるものの、アイヌ語に関し

或以愛努語寫下自身成長過程，或努力寫下或說出自身記憶中的傳說故事、祈禱詞等，以留於後人。另外，跟上一代積極學習愛努語，努力採錄聲音紀錄等工作，也在各地努力進行。

從1980年代開始，包含愛努語的愛努文化復興運動興盛。雖然還有受到歧視，但是，因受先住民國際復權運動觸發，使其活動更為活躍，而愛努語為其中一個象徵。1970年代，在沙流郡平取町二風谷的萱野茂開始了私人愛努語教室（補習班），不久北海道各地都開設愛努語教室。因無標準愛努語，統一的書寫也沒有制定，而造成學習的困難，於是1994年與各愛努語教室代表和語言學者協議，製成《アコロイタクAKOR ITAK》教科書。在此被檢討羅馬字與片假名的表記法〔之後〕、兩種書寫法並用這種形式，現在是比較廣泛採用。1996年有三本辭典刊行，之後又製作數本教科書。也有幾間大學開授愛努語的課程。學生多半為日本人，愛努子弟一年也有數名來聽講。

1997年有一大事件，為制訂愛努文化法，這個法律並不是全然加進所謂先住權等，其與愛努民族本來所要求的法律大為相異，但是以相關愛努語來說，

ていえばいくつかの新しい取り組みがはじまった。アイヌ語ラジオ講座や講習会などで、アイヌ語に触れる人が増えたことは確かだ。また、学習成果を発表する場としてアイヌ語弁論大会が年1回開かれている。口頭文芸と自由な弁論の2つの部門があり、年々参加者が増加している。本州から参加するアイヌもおり、学習の場が広がっていることを感じる。規模や回数を増やし、評価方法を整備すれば、さらに学習意欲向上につながるだろう。

ところで、アイヌ語で物語を語ることなどは独学でも可能だが、作文やコミュニケーションの訓練となると、一人では難しい。私の場合、家庭の中で時折使ってみるほか、大きな行事などで学習者と顔を合わせたときに会話を試みているが、それほど頻繁にできることではない。これとは別に、インターネットや電子メールを使った新しいコミュニケーションが始まっている。ここ数年の携帯電話やパソコンの普及は、離れた地域に暮らす学習者同士の交流に大きな力となった。インターネット上には、アイヌ民族を話題にする掲示板が複数あるが、そこでアイヌ語を使ってやり取りする人々をしばしば見かける。E-mailをアイヌ語で書く人もいる。パソコンではローマ字を使うが、携帯電話の場合は平仮名の方がはやい。平仮名では閉音節を書き表せないのだが、ある程度アイヌ語を知っている人なら文脈から十分理解できる。

開始致力一些新的方向。有愛努語收音機講座（空中教室）、講習會等，確實讓接觸愛努語的人增加。另以學習成果發表的情況來說，一年召開一次愛努語演講比賽，分成口頭文藝與自由辯論兩個部門，參加者年年增加，也有從本州來參加的愛努人，讓人覺得其學習場所日益增加。如果增加規模與次數，完整評審方式，當能更進一步提升學習的意願。

然而，用愛努語說故事的能力可以自學，但作文或溝通等的訓練，一人則比較困難。以我的情況來說，除在家庭中偶爾使用，有大活動等時，則試著與學習者碰面會話，但這種情況無法經常進行。此外，開始出現網路與電子郵件此新的溝通方式。且近數年手機與電腦的普及，也大力促進生活在不同地區學習者的交流。在網路上有數個有關愛努民族話題的討論區，在那裡再三可見使用愛努語對話的人，也有用愛努語寫e-mail的人。電腦上使用羅馬字，手機則使用平假名比較快。用平假名書寫雖不能表現出閉音節，但若是知悉某種程度愛努語的人，從文脈上依然能充分理解。

東京の知人から先日送られてきたmail

「しらおいた こたのみ せこらいえぶ あんやかいえわ、かるぱへき、そもへき、せころくやいぬころ かんぺねあころか、ねとほた、ときよた 学会 ちきなんころくす、かるぱえあいかふるうえねわ。てえたぶり、えかしぶり しけとくなわ えらみしかりぶ くねわくす、へる くぬからかきわ、けらまんるすい。ころか、たんぱかけあいかぶ、、、」

(白老でコタンノミ「村祭」という行事がある  
 そうで、行こうかどうしようかと考えていたのですが、  
 その日は東京で学会がありますので行けません。昔  
 の先祖の習慣は目にしたことがありませんので、見  
 学だけでもして覚えないものは。しかし、今年も  
 できませんでした)

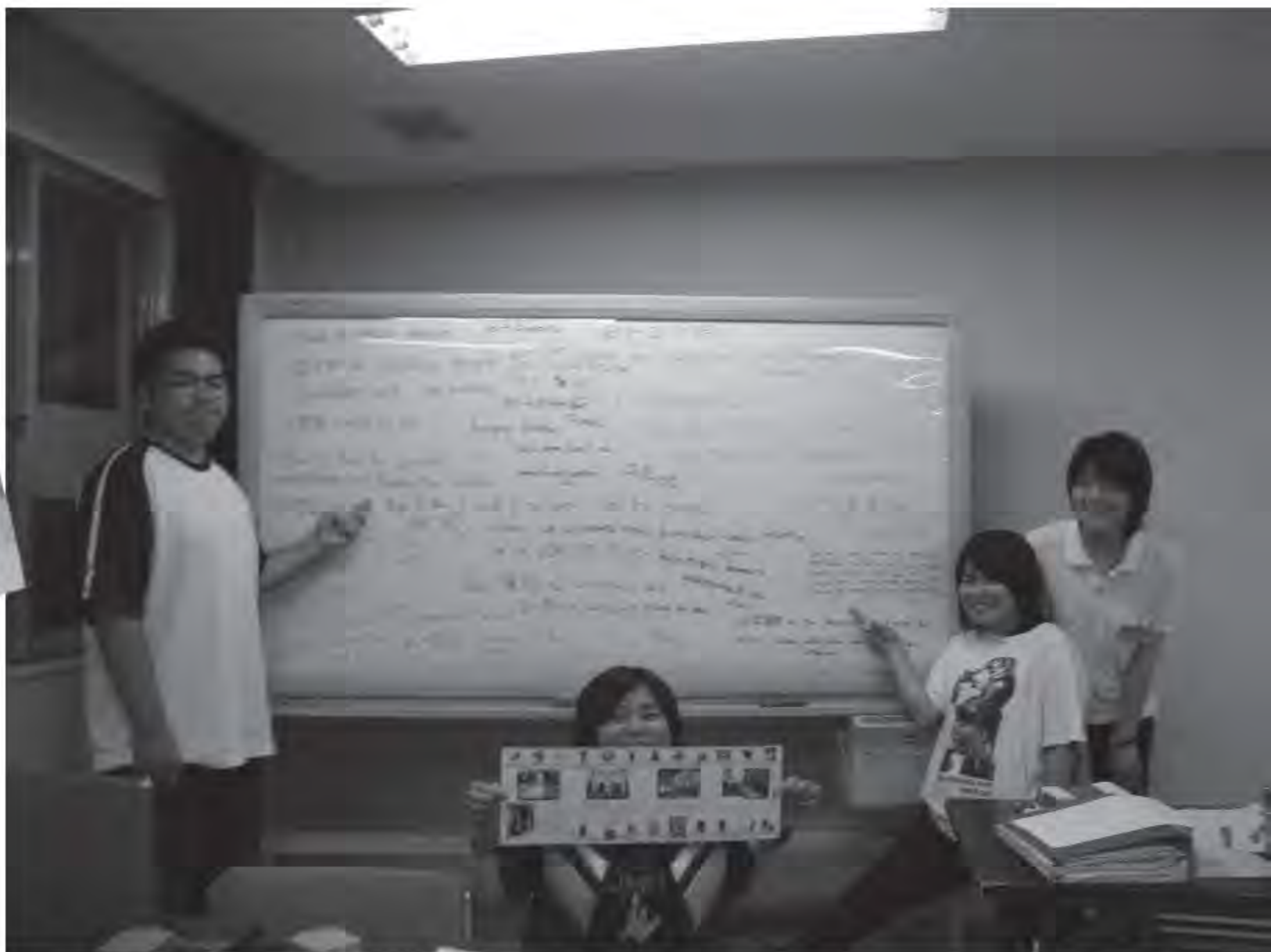
日前東京友人寄來的mail

「しらおいた こたのみ せこらいえぶ あんやかいえわ、かるぱへき、そもへき、せころくやいぬころ かんぺねあころか、ねとほた、ときよた 学会 ちきなんころくす、かるぱえあいかふるうえねわ。てえたぶり、えかしぶり しけとくなわ えらみしかりぶ くねわくす、へる くぬからかきわ、けらまんるすい。ころか、たんぱかけあいかぶ、、、」(註)

(聽說在白老有所謂kotannomi「村祭」的儀式，考慮要不要參加？該如何才好？因那日在東京有學術會議，而無法成行。因未見過往昔祖先的風俗習慣，即使只能觀摩，也想學習。但今年也不行)



▶ 北海道Utari協會出版的愛努語課本。



▲ 本文作者與來博物館實習的年輕愛努族人試著書寫聊天。(2007年9月攝影)。

電話や面と向かっての会話に比べ、書き言葉でのやり取りはスローペースだし、推敲してから返信することができる。そこで、作文にあまり自信の無い人でも取り組みやすいという利点があるようだ。先日は、当館で実習を行った大学生と、ホワイトボードで筆談してみたが、予想以上に盛り上がった。

アイヌ語復興の課題は、教員と教材が絶対的に不足していること、多くの危機言語と同じく、社会の中でそれを使う場所がないことだが、それ以上に大きな問題は、アイヌ語を話すことが日本社会で異端視されることである。これらを解決するためには、何よりも日本政府がきちんとした取り組み行わないことには先に進まない。先日、国連で先住民の権利宣言が採択された。日本政府はこれに賛成はしたものの、アイヌを先住民とは認定していない。それどころか、ほとんどの政治家は日本が多民族国家であるということさえ意識していない。アイヌ語の使用を実現することは「日本では日本語を使うのが当たり前」という常識を変えることから始まるのだ。

比起電話或面對面的會話，用書寫語言來對話速度較慢，並能推敲後再回信。如此有一個優點，對不善於造句的人來說，看起來也比較容易接受。日前，和在本博物館實習的大學生，試著用白板筆談，其情況熱絡，超乎想像。

愛努語復興的課題，有教師與教材絕對不足，如同許多有危機的語言，在社會上沒有使用的場所，除此外的大問題是，說愛努語會被日本社會視為異端。要解決上述問題，唯有日本政府採取積極行動。日前，聯合國通過先住民權利宣言，日本政府雖贊成，卻不認定愛努族為先住民。不僅如此，政治家幾乎連「日本為多民族國家」都意識不到。故得先「在日本當然使用日本語」的常識改變後，愛努語的使用才可能開始實現。

(註)"SIRAOI ta kotannomi sekora=ye p an yak a=ye wa, k=arpa he ki, somo he ki, sekor ku=yaynu kor k=an pe ne a korka, ne toho ta GAKKAI ci=ki nankor kusu, k=arpa eaykap ruwe ne wa. teeta puri, ekasi puri siketok na wa eramiskari p ku=ne wa kusu, heru ku=nukar ka ki wa, k=eraman rusuy. korka, tan pa ka k=eaykap..."



◀ 各種愛努語繪本。